

Afterneath



このたびはアースクエイカー デバイセスのアフターニース、アンビエントリバーブモジュールを購入して頂きありがとうございます！ご使用の際にこの説明書を読んで頂けると音決めの際のノブのセッティング等、素早く対応できると思いますので是非お読みください。

アフターニースは沢山のショートディレイを重ねて得られる効果を利用したリバーブです。洞窟の中に居る様な錯覚をさせるリバーブや、ショートディレイが散りばめられるリズムックで不思議なリバーブまで、今までのリバーブの概念を覆すエフェクトです！元々はコンパクトペダルとして当社から発売されている物ですが、モジュラーシンセの一部として組み込める様に新たな機能を追加しました。アフター・ニース・モジュールは入出力系統の、Input、Output、Reflectのフィードバック用のSendとReturn、そして9個のコントロールを搭載しています。その内の4つはCV経由で外部からコントロール可能。各CVコントロールは入力されるCV電圧を調整できるノブが付いています。

アフターニースはアナログ回路ですが、エフェクト音はデジタルです。

<<< 設置方法 >>>

1. ユーロラックの電源を切るか電源コードを抜いてください。アフターニース・モジュールの設置には16HP必要です。
2. 付属されているリボンケーブルの10pinの赤いケーブル側をアフターニース・モジュールの裏側の"Red Stripe"と書かれている所に合わせて接続し、リボンケーブルの反対側の16pinはご使用予定のユーロラックの説明書の指示に従って電源に接続してください。その際は本体の裏側に丁寧にリボンケーブルが収まるよう確認してください。リボンケーブルが正しく収納されていないと誤作動、故障の原因になる可能性があります。
3. 組み込んでいるラックの仕様に合ったネジを使ってアフターニース・モジュールを固定します。

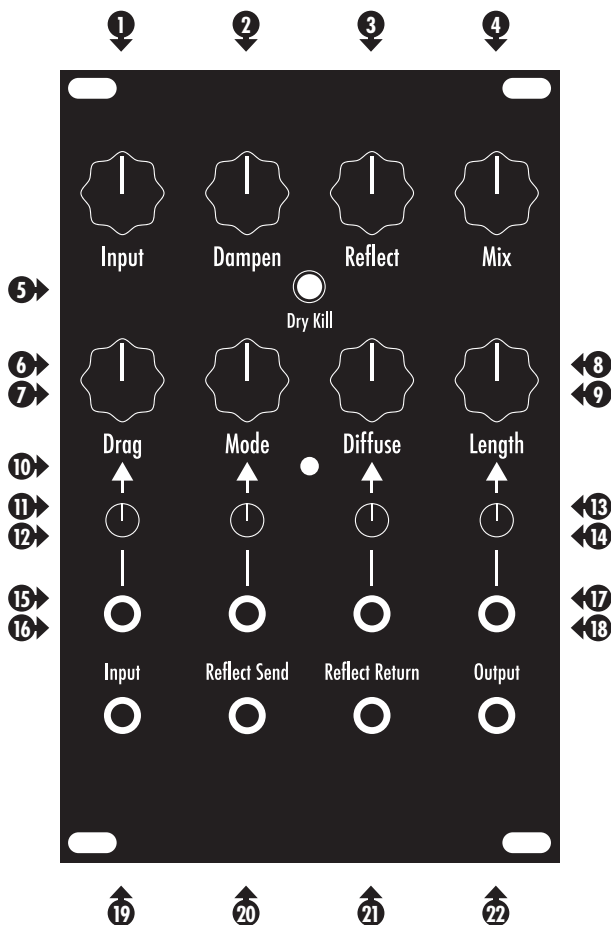
<<< 製品仕様 >>>

- ・ 幅: 16HP/深さ: 31.75mm
- ・ 消費電流: 95mA
- ・ スタンダード10pinユーロラックコネクタ
- ・ Skiffケース対応 - コネクタ含めて裏側のスペースは31.75mm以下
- ・ Inputノブで入力ゲインをコントロールでき、楽器の信号やモジュラーの信号まで様々な入力信号に対応

高品質でノイズの少ない電源の使用をお勧めします

<<< 付属品 >>>

取扱説明書×1
保証書×1
安全上のご注意×1



- 1 **Input:** 入力された信号のゲイン設定です。楽器レベルの信号 (右側に回してください) からモジュラーレベルの信号 (左側に回してください) まで対応しています。
- 2 **Dampen:** エフェクト信号のトーンの設定。右に回すと暗い音色になり、左に回すと明るい音色になります。
- 3 **Reflect:** リバープのフィードバックの量の設定。右に回す毎に波の押し寄せる様なエコー感が増し、左に回すと通常のリバープの様な響になります。なお設定を高くするとリバープが発振します。**Reflect Return**のパッチが使われ信号が入力されている場合は、アッテネーターの役割を果たします。
- 4 **Mix:** エフェクト音のミックス度合いを調整します。右に回す事により原音の比率が低くなります。完全に原音を切る事はできませんが、**Dry Kill**を使う事によってエフェクト音だけ出力する事が可能になります。
- 5 **Dry Kill:** 出力信号から完全に原音を取り除き、エフェクト音だけ出力されます。

- 6 **Drag:** アフターニースを特徴付ける最大のポイントはこのDragです。アフターニースはショートディレイを沢山重ねたリバーブで、ディレイ部分を独立してコントロールできます。Dragでリバーブの跳ね返り具合を調節でき、左に回すとディレイの質量が増えリズムックなリバーブに、右に回すとリバーブの跳ね返り感が少なくなりますが独特なリバーブ感を得られます。単音、コード等を一回弾いてDragをゆっくり回してみてください。リバーブの発振も含め、エフェクト音のピッチが変わり残響音がワープしている様なリバーブ効果が得られます。
- 7 **Mode:** Dragのエフェクト効果のモードの設定。そしてCVにどの様に反応するかも決定します。モードの種類は9個です（各モードの詳細は**Mode**の説明を参照）。
- 8 **Diffuse:** リバーブの広がり方の設定。左に回すとシャープでアタック感の有る質感に、右に回すと静かに波が押し寄せる様なアンビエントな質感になります。
- 9 **Length:** リバーブの長さの設定
- 10 **Mode LED:** Dragでどのモードを選んでいるか、色の違いで確認できます
- 11 **Drag CV Inverting Attenuator:** DragをコントロールするCVインプットに入力された電圧の強さを調節します。信号を反転させることもできます。右側に完全に回しきった状態で入力された信号通りの+方向、左に回し切った状態では-方向に反転。12時の方向に設定するとCVは0となります。
- 12 **Mode CV Inverting Attenuator:** ModeをコントロールするCVインプットに入力された電圧の強さを調節します。信号を反転させることもできます。右側に完全に回しきった状態で入力された信号通りの+方向、左に回し切った状態では-方向に反転。12時の方向に設定するとCVは0となります。
- 13 **Diffuse CV Inverting Attenuator:** DiffuseをコントロールするCVインプットに入力された電圧の強さを調節します。信号を反転させることもできます。右側に完全に回しきった状態で入力された信号通りの+方向、左に回し切った状態では-方向に反転。12時の方向に設定するとCVは0となります。
- 14 **Length CV Inverting Attenuator:** LengthをコントロールするCVインプットに入力された電圧の強さを調節します。信号を反転させることもできます。右側に完全に回しきった状態で入力された信号通りの+方向、左に回し切った状態では-方向に反転。12時の方向に設定するとCVは0となります。
- 15 **Drag CV Input:** 外部のCVをを利用して**Drag**をコントロールできます。
- 16 **Mode CV Input:** 外部のCVをを利用して**Mode**をコントロールできます。
- 17 **Diffuse CV Input:** 外部のCVをを利用して**Diffuse**をコントロールできます。
- 18 **Length CV Input:** 外部のCVをを利用して**Length**をコントロールできます。
- 19 **Audio Input:** 楽器レベルからモジュールレベルの入力信号に対応しており、**Input**ノブを使用して入力信号のゲインを調整します。
- 20 **Reflect Send:** **Reflect**のフィードバック経路に外部の機器を加える事を可能にします。ここからの出力をパッチしても内部のフィードバック信号経路には影響を与えません。
- 21 **Reflect Return:** **Reflect**の**Send**を介して接続された外部機器からの出力をここに接続します。又、**Reflect**のフィードバックが必要無い場合はこちらを信号の入力端子としても扱えます。その際は**Reflect**ノブはパッチされた入力信号のアッテネーターとしての役割を果たします。*注意: ディストーションやレゾナントフィルターで**Reflect**を扱う時は、入力された信号が簡単にフィードバックしてしまう事があるので注意してください。**Reflect**ノブでこのフィードバックは調整でき、こちらにパッチケーブルを差し込むと内部のフィードバック信号の経路は遮断されますが、**Reflect Send**は引き続き有効になります。
- 22 **Studio Output**

<<< ご使用のヒント >>>

Audio Output端子と**Reflect Send**端子を同時に使って擬似のステレオ出力として使うことができます。そこからさらに複雑なパッチも可能で、**Reflect Send**をAudio Outputのサブ出力として使用でき、(例えば、OutputはLのアウトプットして、Reflect OutはR側のアウトプットとして) Reflect Sendから出る信号をフィルターやVCAなどの外部機器でプロセスし、Reflect Returnに戻すことができます。

<<< モード >>>

- 1 **Unquantized**: 全域でクオンタイズされずスムーズな変化をします。
- 2 **Unquantized with Slew**: クオンタイズされずスムーズな変化をします。ただし、テープエコーのバリスピードノブを回した時のように、ノブやCVの動きからは少し遅れ、すぐに追いつくように変化をします。
- 3 **Unquantized Volt/Octave**: クオンタイズされずスムーズな変化をします。1V/Octのカーブにそってスケーリングされており、メロディックなモジュレーションを加えられたり、VCOのように自己発音に音程をつけることができます。
- 4 **Chromatic Scale**: 1V/Oct でクロマチックスケールにクオンタイズされます。
- 5 **Major Scale**: 1V/Octでメジャースケールにクオンタイズされます。
- 6 **Minor Scale**: 1V/Octでマイナースケールにクオンタイズされます。
- 7 **Pentatonic Scale**: 1V/Octでペンタトニックスケールにクオンタイズされます。
- 8 **Octaves & Fifths**: 1V/Octでオクターブと5度にオミットされます。
- 9 **Octaves**: 1V/Octでオクターブにオミットされます。

<<< 電圧制御 >>>

CVを使用している場合、各ノブのパラメーターは相互効果により、エフェクトの掛かり具合が常に変化します。各ノブのパラメーターの振り幅を有効に使用する為には、CV Inverting Attenuatorを希望の数値に設定させます。まずは各ノブを12時の方向に設定する所から始めて、Inverting Attenuatorを右に回しきりそこから必要な分だけ調整をしましょう。

<<< 自己発振 >>>

Lengthと**Reflect**を12時の方向より高い位置に設定するとし回路内で発振が起こります。アフターニース・モジュールを発振させてCVで**Drag**のパラメーターを操作すると、CVで操作できるオシレーターのように使用できます。Modesの3から9では発振したフィードバックをVolt/Octaveのスケールをトラッキングさせる事が可能です。外部のCVを使用する場合、**Drag**ノブは入力された信号からのオフセット設定になります。この部分の機能の性質上**Drag**のパラメーターは1.6Vから4.1Vまでの電圧にのみ対応します。0Vから1.6Vまでの電圧を使用の場合は、**Drag**ノブを右に回し高めに設定する事によって、CVに反応するレンジを変更できます。

*注意: バイポーラーのCV出力を接続する場合は外部の機材を使用して電圧に上げアフターニース・モジュールに入力する必要がある場合が有ります。

アフターニース・モジュールは元々精度のある発振音を作る様には開発されておりません。発振音のピッチは基本的に入力された信号のピッチに従います。信号がフィードバックしている際、元の音は**Length**、**Reflect**、**Dampen**の設定によって様々なハーモニクスを持つ音に変化します。**Length**と**Reflect**を上手く調整する事によって、制御不能なフィードバックになる直前の、サステインの長いフィードバックを得る事ができます。

<<< CVで発振音をトラッキングする >>>

1. **Drag**のCV Inverting Attenuatorを右に回し切って**Drag**ノブを12時に方向に設定します
2. Modesの3から9のうちの一つを選択します
3. **Length**と**Reflect**を12時の方向以上に発振が始まるまで上げます
4. CVのソース（例えば、Volt/Octaveキーボードなど）が**Drag**をうまくコントロールできるレンジを探します。CVで音を何度も出しながら**Drag**ノブを回し、出したい最高音が出るように調節します。
5. 発振が止まるように**Length**と**Reflect**を調整します。

これでアフターニース・モジュールをCVに合わせてスケールリングできるようになりました。Drag CV inputに入力されたCVの電圧に応じて音程が付き、演奏することができます。例えば、Volt/OctのCVキーボードでドの鍵盤を押し、外部ソースからの音をアフターニース・モジュールに入力され、別の鍵盤が押されることでバッファーに入っている音声もその音程で出力されます。LengthとReflectのノブを右に回すことで、サステインが伸びた長く伸びる音に変化します。LengthとReflectの設定が大きい状態では自己発振音に加わり、原音に対し様々な倍音を付与することができます。

モード5-9は、連続した音の循環、ランダムな旋律を生成するにはぴったりです。例えば、ランダムなCVを入力することで、選択したモードで決まるスケールに合わせたランダムなメロディーを生成することができます。

いろいろと実験してみることをお勧めします。



www.earthquakerdevices.jp

©2020 EarthQuaker Devices LLC

お問い合わせ

お客様コミュニケーションセンター
シンセサイザー・デジタル楽器インフォメーションセンター
ナビダイヤル:0570-015-808
上記番号で繋がらない場合:053-460-1666
受付時間:10:00-17:00 (月~金) ※土日祝日及び弊社指定休日除く

修理に関するお問い合わせ先

ヤマハ修理ご相談センター
営業時間:月~金曜日 10:00~17:00 (土/日曜日・センター指定日除く)
TEL:0570-012-808 (ナビダイヤル) または053-460-4830

総輸入販売元

株式会社ヤマハミュージックジャパン LM営業部輸入商品課
〒108-8568 東京都港区高輪 2-17-11
電話番号:03-5488-5445